

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	21 / 2007 / 11-17
タイトル	青森県の植物(2) - 海辺の植物《下北半島》 -
著者名	二唐壽郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

青森県の植物(2)

海辺の植物 《下北半島: 猿ヶ森～仏ヶ浦》

第7代 二 唐 壽 郎



[図 1] 下北半島概略図

下北半島東側は太平洋に面し、砂丘があり鳥取砂丘よりすばらしいと言われているが現在は自衛隊の実弾演習場となっているため立ち入ることはできない。

ヒバの埋没林として知られている猿ヶ森、白い灯台と寒立馬として知られている尻屋、白黒の段だら模様の灯台とマグロで知られている大間、奇岩が立ち並ぶ仏ヶ浦など景勝地として知られているが、また足下にはたくさんのきれいな花を付ける海辺の植物の宝庫でもある。

『寒立馬』うるさい人に言わせると厳冬季に寒さに耐えてたくましく生きている時の馬だけを寒立馬と呼び、この写真のように子馬をつれてのんびり草を食む時は、ただの野生馬と呼ぶのだそうだ。

写真では、人工物を写し込まないことが基本になっているようだが尻屋へ行くと何処からでも見え



[写真 1] 尻屋崎の寒立馬



[写真 3] カワラナデシコ



[写真 2] エゾオグルマ



[写真 4] コハマギク

る白亜の灯台をどうしても写し込みたくなる。掲載した3枚の写真は11ミリの超広角レンズでそれぞれの花を引っ張りバックに灯台を撮し込んだ物である。

今回は、猿ヶ森から尻屋、大間、仏ヶ浦までの植物を紹介する。

[表 1] 下北半島に生育する主な海辺の植物リスト

(※は、前号ないし今号に写真掲載あり、色は花色)

植物名	科名	場所	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ジンヨウイチヤクソウ	いちやくそう科	猿ヶ森		○	○			
ベニバナイチヤクソウ ※	いちやくそう科	〃		●	●			
オオヤマフスマ ※	なでしこ科	〃		○	○	○		
オオウメガサソウ ※	いちやくそう科	〃		●	●			
ウメガサソウ ※	いちやくそう科	〃		○	○			
ノハナショウブ ※	あやめ科	〃		●	●			
カキツバタ	あやめ科	〃		●	●			
オオダイコンソウ	ばら科	〃		●	●			
エゾヒナノウスツボ	ごまのはぐさ科	仏ヶ浦		●	●	●		
スナビキソウ ※	むらさき科	〃		○	○	○		
ウミミドリ ※	さくらそう科	〃		●	●	●		
ハマベンケイソウ ※	むらさき科	〃		●	●	●		
エゾツルキンバイ ※	ばら科	〃	●	●	●	●		
オカヒジキ	あかざ科	〃			●	●	●	●
エゾオグルマ ※	きく科	〃			●	●	●	
ハマアカザ	あかざ科	〃				●	●	●
ハマダイコン ※	あぶらな科	〃	●	●	●	●		
キタノコギリソウ ※	きく科	〃			●	●		
エゾノコギリソウ ※	きく科	〃			○	○		
ソバナ	ききょう科	〃			●	●		
コウゾリナ ※	きく科	〃			●	●	●	
ママコノシリヌグイ ※	たで科	〃			●	●		
ハマニガナ ※	きく科	〃			●			
スカシユリ ※	ゆり科	尻屋		●				
ウツボグサ ※	しそ科	〃		●	●			
ニッコウキスゲ ※	ゆり科	〃		●	●			
ハマボウス ※	さくらそう科	〃		○	○			
ハマハイシヤヅン ※	ききょう科	〃		●	●			
カワラナデシコ ※	なでしこ科	〃			●	●		
ギボウシ ※	ゆり科	〃			●	●		
ミソハギ ※	みそはぎ科	〃			●	●	●	
エゾミソハギ	みそはぎ科	〃			●	●	●	
ハマボウフウ ※	せり科	〃			○	○		
ハマフウロ ※	ふうろそう科	〃			●	●		

植 物 名	科 名	場 所	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ナミキソウ ※	しそ科	〃			●	●		
ヒメヤブラン ※	ゆり科	〃			●	●		
キリンソウ ※	べんけいそう科	〃		●	●	●	●	
カセンソウ ※	きく科	〃			●	●	●	
ラセイタソウ ※	いらくさ科	〃			●	●	●	
ハマボツス ※	さくらそう科	〃		○	○			
トウオオバコ ※	おおぼこ科	〃			○	○	○	
ハマハコベ ※	なでしこ科	〃		○	○	○	○	
シロヨモギ ※	きく科	〃			○	○	○	
ハマヒルガオ ※	ひるがお科	〃	●	●	●			
ハマツメクサ ※	なでしこ科	〃	○	○	○	○		

◆ ベニイチヤクソウ(いちやくそう科) 別名 ベニバナイチヤクソウ 【紅花一葉草、紅一葉草】

黒松林の林床に敷き詰められたように咲いている様はすばらしいの一語につきる。イチヤクソウとは一つの植物でたくさんの効き目があるからと言われている。強心、降圧、抗菌、脚気、むくみ、利尿、傷毒虫のかみ傷、リュウマチの関節痛等に効き目がある。

◆ オオヤマフスマ(なでしこ科) 別名 ヒメタガソデソウ 【大山衾、姫誰が袖草】

ノミノフスマ(なでしこ科)に似ていて山に生え、ノミノフスマより大きいので名付けたもの。フスマとは、昔寝るときにかけた寝具の事。山という名が付いているが、原野にも生えていて、わたしの散歩する道路端に初夏の頃咲いている。初め遠くから見たとき大きなハコベだなと思い近づいて見たらこの花だった。別名のヒメタガソデソウは、タガソデソウ(なでしこ科)に似ていてそれより小さいから。古今集「色よりも 香こそあわれとおもほゆれ 誰が袖触れし 宿の梅ぞも」から。白色で香気があるから。



[写真 5] ベニバナイチヤクソウ



[写真 6] オオヤマフスマ



[写真 7] オオヤマフスマ(花)

◆ オオウメガサソウ(いちやくそう科) 【大梅傘草】

花の形が梅に似ていてウメガサソウより一回り花が大きく傘のように下を向いて咲くから。最初は下を向いているが次第に上を向いてくる。1 茎に 3~9 個花を付ける。この花の咲く 7 月中旬から下旬は、丁度梅雨の時期で太平洋岸は冷たいヤマセが吹き霧雨が降り続く日が多い。毎年この時期に写真を撮りに行くが、その年により開花時期が異なり、いい写真を撮るためには 2、3 度行かなければならない。それでもなかなか思い通りの写真がとれないでいる。

◆ ウメガサソウ(いちやくそう科) 【梅傘草】

前のオオウメガサソウと同じ場所に混じって咲いているが、数は多くない。オオウメガサソウより花が一回り小さいこと、1 茎 1 花である事花の色が白いことで区別が付く。



[写真 8] オオウメガサソウ



[写真 9] オオウメガサソウ



[写真 10] ウメガサソウ

◆ ニッコウキスゲ(ゆり科) 別名 ゼンテイカ 【日光黄色菅.禅定花】

説 1)日光地方多くに大群落を作ることから。

説 2)花が黄色で葉がカサスゲに似ているから。

別名の禅定花はいろいろ調べたが不明。青森県ではベンセ湿原や八甲田山麓で大群落を作る。山中での花もいいが尻屋の海岸に海をバックに咲くニッコウキスゲもすばらしい。又すこし登った草原にノハナショウブと混じって咲いているのも見事である。



[写真 11] ニッコウキスゲ



[写真 12] ニッコウキスゲ(群落)

◆ ウツボグサ(しそ科)

別名 カコソウ

【靱草.夏枯草】

花穂が槍を入れる靱に似ているから。別名の夏枯草は穂状花穂が夏になると茶色に枯れてしまうから。山野の草原にたくさん生えている。8月頃の状態から夏枯草とは、いい名前を付けたものだ。

◆ ウンラン(ごまのはぐさ科)

【海蘭】

海に咲く蘭ということで、蘭という字が付くがランの仲間ではない。ランに似た花を付けるから。栽培種のキンギョソウの原種。



[写真 13] ウツボグサ



[写真 14] ウツボグサ



[写真 15] ウンラン

◆ ヒメヤブラン(ゆり科)

【姫薔蘭】

藪に生えて葉が蘭に似ているから。ヤブランに似ていて小さくてかわいいから。尻屋の芝生の中にたくさん咲いているが小さいため芝生の陰になっていて気を付けないと見落としてしまう。

◆ モジズリ(らん科)

別名 ネジバナ

【捩摺.捩花】

福島県信夫郡の染め物ねじれた模様が特徴の絹織物『しのぶもじずり』から。百人一首の『河原左大臣』の歌『みちのくの しのぶもじずり誰ゆえに 乱れそむにし 我ならなくに』が有名。あちこちの草原に生えている。螺旋状に咲くが左巻と右巻がある。紫に混じって白花もある。



[写真 16] ヒメヤブラン



[写真 17] ヒメヤブラン



[写真 18] モジズリ

- ◆ ウミミドリ(さくらそう科) 【海緑】
海辺の湿地に生え葉が秋になっても紅葉せず緑色のままだから。

- ◆ ハマハコベ(なでしこ科) 【浜繁縷】
浜に生えるハコベの意。ハコベとは
説 1) 蔓延芽叢(はびこりめむら)が変化したもの。
説 2) 種が落ちるとその年のうちに芽が出る茎がよくはびこるから。



[写真 19] ウミミドリ



[写真 20] ウミミドリ



[写真 21] ハマハコベ

- ◆ エゾツルキンバイ(ばら科) 【蝦夷蔓金梅】
北海道や北国に生え蔓で這って花の形が梅に似ていて金色をしているから。海岸の塩性湿地に生える。仏ヶ浦の階段を下ったところに咲いている。

- ◆ スナビキソウ(むらさき科) 【砂引草】
地下茎が長く地面に伸びて浜の強い風でも砂が飛ばないで集めているから。

- ◆ ハマダイコン(あぶらな科) 【浜大根】
字の通り浜に生えている大根のこと。栽培種の大根が野生化したもので、種子を採って畑に蒔くと立派な大根になるそうです。大間崎の灯台の下の道路脇に咲いていた。



[写真 22] エゾツルキンバイ



[写真 23] スナビキソウ



[写真 24] ハマダイコン

◆ キバナカワラマツバ(あかね科)

【黄花河原松葉】

黄色の花を付け、葉が松の葉に似ているから。山野の乾いた草原にも咲いている。



[写真 23] キバナノカワラマツバ

参考文献

牧野新日本植物圖鑑
みちのく海辺の花
津軽野の花. 山の花
津軽半島の植物
龍飛岬の四季
岩崎村の植物
西津軽の植物
みちのく植物図鑑
青森県植物誌
野山の薬草
食べられる山野草
植物の世界

牧野富太郎
葛谷孝著
葛谷孝著(北の街連載)
井上守著
龍飛野草の会
岩崎村教育委員会
西津軽郡教職員組合
石川茂著
中沢潤編
山西潔著
那須浩編集
朝日新聞社